

令和7年度 第3回買物公園エリアプラットフォーム会議 会議要旨

【開催日時】

令和7年11月17日（月） 18:30～20:30

【開催場所】

旭川市庁舎7階大会議室C

【会員参加者（敬称略）】

赤松 昌輝、荒木 孝文、有馬 準、植木 大輔、草野 常幸、佐藤 祐哉、四戸 秀和、
鈴木 伸治、知本 有里、長尾 英次、蜂須賀 咲来（Web）、柳 絵里、山田 直人、
やまだ めい、横井 昂也、旭川市

【会議資料】

- ・ 第3回 エリアプラットフォーム会議

【会議内容】

- 1 開会
- 2 議事

※ 資料「第3回 エリアプラットフォーム会議」に基づき進行、説明。

① 社会実験のコンテンツの振り返り（グループディスカッション）

- ゾーンごとに、社会実験で実施したコンテンツの振り返りについて、グループディスカッションを行った。

- 各ゾーンからの発表は以下のとおり。

《ゾーンⅠ：1条周辺エリア》

- ・ ゾーンⅠでは9つのコンテンツを実施した。
- ・ 買物公園の玄関口であり人通りが1番多いゾーンとして、他のゾーンに人の流れを生むコンテンツを展開した。特に「まちにちガチャ」は、回遊を促すことができたイベントとなった。
- ・ ゾーンⅠは滞在空間を広く展開しており、滞在空間全体が多くの方に使われていた。「まちなかDIYパーク」や「図書館の読み聞かせ」や「まちにちキャンドルナイト」など、滞在空間をうまく活用したコンテンツが展開できた。
- ・ 質の高いコンテンツを展開できたが、参加人数が少ないコンテンツもあり、情報発信が課題だと感じた。
- ・ 今回コンテンツに関わってくれた団体がいくつかある。おそらく市内で見ると、もっと一緒に関わってもらえるという方がいるという可能性を感じたので、今後の活動につなげていきたい。

《ゾーンⅡ：3条周辺エリア》

- ・ ゾーンⅡでは12個のコンテンツを実施した。沿道店舗との連携・市内の活動団体や企業とのコラボ・買物公園でやってみたいという人や団体とのコラボの3つに分類できる。
- ・ ゾーンⅡの未来ビジョンのイメージ「懐かしさと新しさが共存するセンターゾーン」を強く意識して実施したコンテンツもある。「レトロゲーム」や買物公園の昔の写真と今の写真を使った「記憶のパズル」は企画の趣旨がビジョンイメージに合っていたが、ただゲーム機があったりパズルがあったりするだけだと、企画の趣旨が伝わりづらかったと感じた。もう少し企画の趣旨がわかるように見せることで、さらに効果を発揮するのではないかと思う。その他の各コンテンツにおいても、企画の趣旨をもっと発信できるとより良いイベントにつながったと

感じている。

- ・ 「AFRICA DAY」は参加型のイベントとして実施した。自然発生的な新たな層に関わってもらい、参加してもらおうという部分の可能性を感じた。
- ・ スポーツや音楽・パフォーマンスのコンテンツは固定のファンがつきやすく、一定の集客効果があった。
- ・ コンテンツの実施主体によって、エリブラのサポートが必要な度合いが様々だった。サポート度合いもレベル分けをして、お互いの関わり度合いをマッチさせてからスタートしていくと、エリブラとコンテンツ実施主体のそれぞれの役割がわかって円滑に進むのではないかと感じた。
- ・ まちにち計画実施前に沿道店舗に挨拶まわりをしたが、沿道店舗の持つ横のつながりがありなかったように感じた。将来的には沿道店舗同士が町内会みたいな一つの組織のようになれば、そこに話をするすると周りに広がっていくというようなことが起きやすいのではないかと感じた。

《ゾーンⅢ：5条周辺エリア》

- ・ ゾーンⅢでは3つのコンテンツを実施した。
- ・ 全体を通して情報発信が課題と感じた。例えば、朝力フェの企画をホテルや民泊などに発信したいと思ったときなどの情報発信のネットワークを構築しておくといい。
- ・ また、既存のイベントや団体とのしっかりとした連携も重要である。「まちおと」では、旭川ミュージックウィークを実施している旭川観光コンベンション協会と、「まちにち計画子ども縁日」では、子ども縁日を実施していた旭川まちなかマネジメント協議会と連携できた。既存イベントの年間スケジュールをもとに、企画を打っていくという形がとれるといい。

《ゾーンⅣ：7条周辺エリア》

- ・ ゾーンⅣでは大きく4つのコンテンツを実施した。商店会の方にもまちにち計画に自分事として関わってほしい、良いところも悪いところもどんどん意見を出してほしい、つながりを持ってほしいという狙いから、もともと商店会で実施していたイベントもまちにち計画のコンテンツとして組み込んだ。
- ・ ゾーンⅣのコンテンツでは、特に新規イベントだと道路使用許可の手続きに時間を要した。今後新しい取組を行っていく上で道路使用許可が障壁にならないように、警察の方にもまちにち計画に関わってもらえる取組を考えていけたら良い。
- ・ ゾーンⅣは夜明かりが少ないため、夜のイベントの際は暗いと感じた。買物公園の設備として明かりを増やす、エリブラとして夜間イベントの際に利用できる什器を所有するなど、今後のために何か対策が必要だと感じた。
- ・ 「緑道盆踊り大会」は想定していたよりも集客があった。トイレがなく、沿道店舗のトイレを急遽使用したことから、次年度以降継続する際は、簡易トイレを用意する必要がある。

《ノヴェロ実施コンテンツ》

- ・ ノヴェロの自主コンテンツとして、8つのコンテンツを実施した。
- ・ 市民参加型の情報発信コンテンツとして、「ハッシュタグキャンペーン」と「まちにち情報スクエア」を実施したが、情報発信してもらうための周知が不足しており、思ったような効果は得られなかった。
- ・ 「買物公園bugyugi」と「酒フェス！」と「肉フェス！」は、沿道店舗に協力してもらい実施したコンテンツである。沿道店舗が買物公園の道路空間に出店するという面で新たな可能性を感じられたコンテンツとなった。
- ・ 朝のイベントとして「旭ラー」と夜のイベントとして「まちこわ」を実施した。集客効果はあったものの、その後他のゾーンなどへの回遊につながらなかった点が課題となった。

- ・ 平和通商店街とＪＣの協力で実施した「まちにち交流会」は、こちらも集客効果があり、様々な業種・立場の方が意見交換をする機会となった。
- ・ 買物公園に人を集めるという部分はある程度できるが、その後につながる何かという部分の効果を出すには、やはりコンテンツ全体を通して告知が不足していたと感じた。
- 各ゾーンの発表を踏まえ、アドバイザーの鈴木氏から、次のような意見があった
- ・ 効果検証をする際には、未来ビジョンにつながる種はあったかという点を意識すると良い。
- ・ 実施目的や狙った効果が明確だったものについては、それがうまく伝わったかどうかという点にもスポットをあて、各グループの振り返りをもう少し深めていけたら良い。
- ・ 今回課題として挙げられた点が一番重要で次につながる要素。課題をしっかりと記録して、次はどうするのかというところを設定し、そこから今後につながる検討をしてほしい。
- ・ 各ゾーンで実施したコンテンツが「回遊につながったか」という視点で、全体を見た上でしっかりと検証する必要がある。個別に振り返りをしているとその視点があまり見えなくなってしまうので、その点はプラスアルファで事務局を中心にさらに効果検証の作業を進めてほしい。
- 以上の説明について、参加者から質問や意見等はなかった。

② 社会実験の効果検証報告

- 合同会社流動商店から、社会実験中に実施した様々な調査などから見えた効果検証結果について、資料に基づき説明を行った。
- 以上の説明について、参加者から次のような質問があった。
- ・ 情報発信が課題として挙げられたが、広報戦略はあったのか。
→社会実験全体の方向性や大きな情報発信のタイミングは計画していたが、情報の取りまとめが遅くなって発信が遅れたりして、実際には最初に立てたスケジュールから少しずつ遅れていったことで、コンテンツの具体的な内容などに対する告知の時間が十分に取れなかった部分がある。
- ・ バスキングについて、平日と土日祝日でどれぐらいの違いがあったのか。平日は人が全然いないような時間帯もあるので、そういったときにエリブラがサポートできるといい。
→日ごとのバスキング出展数のデータを資料２６ページに掲載している。出展者アンケートでは、あまり売り上げは高くないがバスキングに対する満足度が高いという方も見られた。また、１条で出店したときの方が売り上げが低く、７条で出店したときの方が売り上げが高かったという方がいらっしまったのもおもしろい結果だと感じた。平日と土日祝日での出展料の差は必要だが、１条・７条などのエリアでの出展料の差はいらないのではないかという意見も多かった。

③ 検証結果を踏まえた次年度の活動方針（グループディスカッション）

- 合同会社流動商店から、これまでの振り返りと次年度以降の主な取組（案）を資料に基づき説明した。
- 現状見えてきた課題を解消するアイデアについて、ゾーンごとにグループディスカッションを行った。
- 各ゾーンからの発表は以下のとおり。
《ゾーンⅠ：１条周辺エリア》
- ・ 買物公園の玄関口というイメージで滞在空間を設置した。沿道店舗との連携は少なく、広場や公園のような利用が多く見られた。
- ・ 路面店が少ないゾーンなので、ワークショップなどでの利用が期待できる。
- ・ 情報発信の面では、SNS 発信や口コミなど、もっと市民を巻き込みながら市民と一緒に

くっていけたら広がっていくのではないかという意見が出た。

- 年度に縛られない準備をしていけたらいいという意見もあった。次年度のアイデア出しなど、できるところから始めていけたら良い。

《ゾーンⅡ：3条周辺エリア》

- コンテンツについては、出展者の支援・サポート体制を段階的に分けていく必要がある。例えば、許可申請や広報自体も有料化するなども検討しても良いのではないかという意見が出た。
- 様々なコンテンツを実施したが、効果検証結果から、滞在空間に求められているニーズは、イベントよりも、日陰・座って飲食休憩できるスペースやバスキングだとわかった。
- 滞在空間にシンボリックなものは必要で、ゾーンⅡはパーゴラがあったので良かったと感じており、パーゴラは継続して設置したい。
- バスキングの備品貸し出しについて、例えばステージとテーブルのセットでいくらなど、メニュー化してカタログをつくり、来年度試してみるのも良いのではないかという意見が出た。
- 冬の取組については、正直難しいという意見が出た。冬の取組は人通りが多い駅前や1条くらいまでが限界かなと思っているが、冬まつりなど他の既存の大きなイベントとあわせて何かを実施するというのはできるのではないかという意見が出た。

《ゾーンⅢ：5条周辺エリア》

- 滞在空間については、タープを昨年に引き続き設置した。オープンテラスで出しているパラソルセットとタープの関係性や、タープの位置は検討する必要がある。今年は紐をくくる場所の関係でタープをはれて屋台側側に設置したが、理想はもう少し真ん中に大きく設置したい。
- 椅子やテーブルなどはあって良かったが、ゾーン間を移動させるのが大変だったため、備品を移動させるツールがあると良い。それに広告枠をつけて収入源としても良いのではないかという意見が出た。
- コンテンツの充実と活動展開については、昨年設置して今年は設置できなかったサイクルラックについて、旭川市の自転車のルートの計画をまちなかを拠点に組むなど、全体計画を組んだ上でサイクルラックを設置したい。全体計画の中で位置づけたものをエリプラとして実施できたら良いのではないかという意見が出た。
- 沿道店舗のショップカードも、きちんと情報収集をした上で展開できるといい。
- 総じて、エリプラだけで考えないことが大事で、周囲と連携して企画し、実施していくべきという意見が出た。
- エリプラメンバーがふらっと集まることができる拠点があると良い。フードテラスをうまく活用し、観光案内の土日の機能も復活させられると良い。
- バスキングについては、出展者の支援はもちろん必要だが、ぼつんと1件だけで出展していると逆に寂しい感じがするので、その辺りを調整する必要がある。また、沿道の飲食店などのバッティングを避けられるように、ガイドラインをつくる必要があるという意見も出た。

《ゾーンⅣ：7条周辺エリア》

- 滞在空間については、ゾーンⅣは日陰が少なかったと感じた。途中から四阿を設置したが、日除けだと分かりづらく、荷物置場や子どもの遊び場などとして使われることが多く、あまり日除けとして使用されていなかったため、もう少し分かりやすく日除けだとわかる形状にしたり標示をしたりするなどすると利用されやすいという意見が出た。
- ゾーンⅣには緑道があるので、ぶんか小屋側にも人工芝を敷き、緑をもっと増やせたら良

いという意見があった。

- 冬については、ゾーンⅣは除雪がまめに入るエリアで、それが通行しやすい反面、少し寂しさもあったりするので、観光客や子どもたち向けにあえて雪を残しておくエリアを設けてもいいのではという意見もあった。
- コンテンツについては、実施する人たちの負担が大きかった部分がある。ボランティアやお手伝いで関わってくれる人をもう少し増やせたら良い。また、イベントを振り返るアーカイブが今はない状態なので、ホットな状態でアーカイブが見えるような仕組みができれば良いという意見があった。
- 小学校に出前授業をする機会があったが、子どもたちから面白い意見がたくさん出たり、こういうことを考えているんだという気づきがあったりしたので、「子どもエリプラ」のようなことができれば良い。また、出前授業のような機会をもっと増やし、子どもを巻き込んだコンテンツをエリプラ活動で実施していけたら良いという意見が出た。
- バスキングについては、そもそも「バスキング」という言葉自体にあまりなじみがなく、わかりづらいのではないかという意見があった。それも周知・認知が追いついてない一つの要因になるのではないかという意見があった。
- バスキングのルールづくりについては、運営者の視点と出展者の視点のバランスをとって検討していくことが大事という意見が出た。
- 事務局より、次年度の体制（案）と今後の議論の進め方について資料に基づき説明した。
- 各ゾーンの発表を踏まえ、アドバイザーの鈴木氏から、次のような意見があった。
- 社会実験が未来ビジョンにどうつながっていくかということを常に意識することが重要。未来ビジョンにつながるアイデアは本日の議論でたくさん出たと思う。
- 情報発信について、SNS はエリプラメンバー以外をうまく巻き込んでいくと良い。「まちにち計画」で検索すると、個人アカウントでリール動画を発信している方もいる。従来型の広報では情報発信に限界がある。全て自分たちで抱え込まず、得意な方をうまく活用していき、人とつながっていけると良い。つながれる人をみんなで探して行ってほしい。社会実験中だけでなく、情報発信は継続して実施していくべき。
- 人を巻き込んでいくということは、実は巻き込まれるということ。それぞれのやりたいことにみんなが少しずつ協力し合って、一緒にプロジェクトを進めていくことが大事。
- 役所が計画をつくりお金を出し続ける時代ではない。活動主体も役所もお互いが歩み寄り、計画の実現に近づいていく。この社会実験はまさにその取組だと思う。遠い未来ビジョンを少しずつ見上げながら、様々な人の意見を聞き、全員で進んで行ってほしい。

3 閉会

以上